



青空がまぶしく感じられる今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、大変ご無沙汰しておりましたリレーションですが、今回は新任医師の紹介と整形外科紹介、岡山中央奉還町病院回復期リハビリテーション病棟の特集を中心にをご紹介します。



2017年度ご挨拶

地域医療支援病院 岡山中央病院 院長 岡部 亨

新緑の候、平素より大変お世話になり深く御礼を申し上げます。

昨年度も皆様におかれましては連携事業等においてご協力頂き大変ありがとうございました。さて岡山中央病院では今年度も33名の新入職員を迎える事が出来ました。病棟や外来には若い人たちの希望と不安の入り混じった表情が溢れ、これが良くも悪くも我々の躍進の原動力となっています。この子たちの為に、あるいはこの地域の為にと年を重ねるごとに自身に言い聞かせている今日この頃です。その中で一昨年度開設した北部地域合同連携デスクは「岡山市北部地域病診医介連携ネットワーク」にもリンクしはじめ、地元医師会を中心とする病病、病診の物理的な協力体制が更に進捗した昨年度であったと思います。この病病、病診、そして介護・福祉を担う関係者の協力は地域包括ケアという大きなテーマの根幹をなすものです。そこには地域全体で創り上げる共創が求められますが、

これを実現する過程のカギは“お互いを思いやる姿勢”であると考えています。「顔の見える関係」と簡単に言ってしまいましたが、我々病院の職員も含め、地域医療を担う人々がある一定のビジョンや規律・基準を共有しながら地域包括ケアを成してゆくには、現場で起こっている問題や矛盾、各々職種の不安等を事例を通してトコトン検証し、それをそれぞれの病院や職場に持ち帰り同じような事象を回避する事がとても大事だと考えます。こうして一歩ずつ少しずつ解決に導いてゆく事がお互いの信頼関係を築く上で最も効果的であると改めてこの病診医介連携ネットワークを通して感じました。当院の職員教育の基軸に「心を育て、自分に恥じない生き方で人の役に立つ」というものがあります。本年度は本業の急性期医療に尚一層邁進すると共に「連携」という言い慣れた事柄に職員一人一人がどれだけこのような気持ちを投影できるかに拘ってみたいと思います。本年も宜しくお願い申し上げます。



CONTENTS

page 1	ご挨拶
page 2・3	岡山中央奉還町病院リハビリテーション病棟のご案内
page 4	回復期リハビリテーション病棟セラピストマネージャーと認定看護師のご紹介 骨粗しょう症マネージャーによる骨の相談室のご紹介
page 5	診療科紹介 整形外科特集
page 6	新任医師のご紹介・医療従事者向け勉強会のご案内

岡山中央奉還町病院



回復期リハビリテーション病棟のご案内



岡山中央奉還町病院 回復期リハビリ病棟は、病床数66床とリハビリセンターで構成されています。
また、当院では平成14年11月に日本医療機能評価機構からの認定を頂き、患者さんに対して365日・24時間質の高いリハビリを提供できる体制を整えています。

患者さんの『家の帰りたい』を支援します

回復期リハビリ病棟では、“機能の回復に向けて多職種によるチームで効率的・効果的なリハビリを行い、患者さんの『家に帰りたい』を支援します。”という病棟の理念の下、患者さんと関わる全てのスタッフが、きめ細かい情報をもとに全員でリハビリテーション計画を立案し、定期的に見直し、早期の機能回復、能力向上を目指して取り組んでいます。



回復期リハビリテーション病棟とは？



日常生活動作(ADL)能力の向上による寝たきり防止と社会・家庭復帰を目指している方々を支援するために、医師・看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・介護福祉士・社会福祉士などの専門家が共同で個人のリハビリテーションプログラムを作成し、プログラムに基づいた効果的なリハビリテーションを行うための病棟です。

患者さんの「入院生活＝リハビリ」です。－365日・24時間リハビリ－

患者さんが朝起きて寝までの生活そのものを「リハビリ」と捉え、看護師・介護福祉士・療法士によるチームで病棟の患者さんの生活リハビリに関わっています。

朝昼夕の食事前後の歩行・食事・歯磨き・トイレの動作のリハビリなど、入院生活の中でリアルタイムのリハビリを提供しています。

日曜日や祝日も休まず365日リハビリを受けることができ、1日に平均2～3時間、患者さんの目標に合わせたリハビリを提供しています。

療法士も早出遅出勤務を行い、病棟での生活リハビリに関わっています。



対象となる方

	疾 患	発症から 入院までの期間	病棟に入院 できる期間
1	脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント手術後、脳腫瘍、脳炎、急性脳症、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、腕神経叢損傷等の発症又は手術後、義肢装着訓練を要する状態	2ヵ月以内	150日
	高次脳機能障害を伴った重症脳血管障害、重度の頸髄損傷及び頭部外傷を含む多部位外傷		180日
3	大腿骨、骨盤、脊椎、股関節もしくは膝関節の骨折又は二肢以上の多発骨折の発症後又は手術後の状態	2ヵ月以内	90日
3	外科手術又は肺炎等の治療時の安静により廃用症候群を有しており、手術後または発症後の状態	2ヵ月以内	90日
4	大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は膝関節の神経、筋又は靱帯損傷後の状態	1ヵ月以内	60日
5	股関節又は膝関節の置換術後の状態	1ヵ月以内	90日

更に以下の3点を満たす患者さんが対象の病院です。

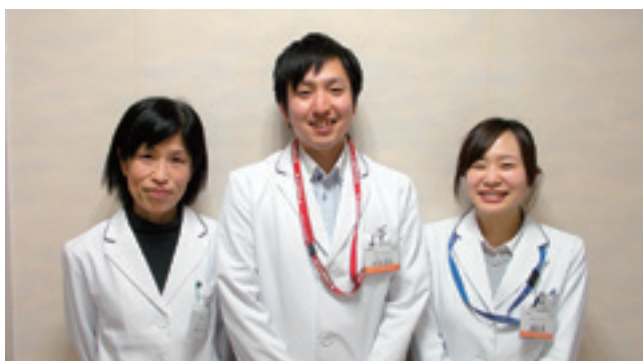
- ① リハビリテーションにより、回復の可能性がある。
- ② リハビリテーションに、患者さんが意欲的に取り組む意思がある。
- ③ リハビリテーション終了後、在宅(施設)に戻る。



入院までの流れ

入院は、他の病院からのご紹介をいただいた場合のみ対象となります。

MSW2名、退院調整看護師1名が中心となり、日々入退院の調整を行っています。



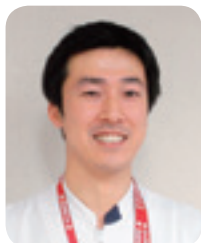
医療ソーシャルワーカーが相談を承ります。必要に応じて患者さん・ご家族からお話を伺うため、入院先の病院に訪問させていただいたり、当院へ来院していただくこともあります。

相談・面接結果をもとにリハビリテーションの可否など総合的に判断して入院を決定いたします。

入院日に受付にお越しいただいて、病棟にご案内します。

回復期リハビリテーション病棟 セラピストマネージャーと 認定看護師のご紹介

回復期リハビリ病棟では、質的向上を図り、多職種との協働とチームアプローチの実践を目指した活動をしていくために、回復期リハビリテーション病棟協会の定める研修を受講し、認定を受けたセラピストマネージャー1名と回復期リハビリテーション病棟認定看護師が1名が勤務しております。



2015年認定 セラピストマネージャー
津田 耕治 TSUDA KOJI

患者さんは、後遺症と向き合いながら先の生活へと目を向けていくことになります。その過程において、多職種チームでの関わりはとても大切です。患者さんと他職種チームが思いを共有し、一つの目標を立て出来ることを日々積み重ねていく、その一つ一つの関わりに心を込めて取り組む事をいつも意識しています。また、セラピストとして、リハビリ室だけでなく、病棟生活場面や院外での訓練を積極的に取り入れ、その人らしい生活が再獲得出来るよう目指しています。



2016年認定 回復期リハビリテーション病棟認定看護師
難波 文江 NANBA FUMIE

看護師は「ケア10項目宣言」に基づいた日々のケアの実践を目指しています。患者さんの可能性に注目し、退院後の生活を視野に入れたできる限りの自立に向けて根気強く支援しています。また疾患によっては障害、後遺症が伴う方もおられます。今後の生活をイメージできない、望みが無い、受容できないといった精神的なケアも心がけています。患者さんに寄り添いながら一緒に今後の新たなライフスタイルを獲得できるように関わっていきます。

回復期リハ病棟 ケア10項目宣言

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 食事は食堂やデイルームに誘導し、経口摂取への取り組みを推進しよう ② 洗面は洗面所で朝夕、口腔ケアは毎食後実施しよう ③ 排泄はトイレへ誘導し、おむつは極力使用しないようにしよう ④ 入浴は週2回以上、必ず浴槽に入れるようにしよう ⑤ 日中は普段着で過ごし、更衣は朝夕実施しよう | <ul style="list-style-type: none"> ⑥ 二次的合併症を予防し、安全対策を徹底し、可能な限り抑制はやめよう ⑦ 他職種と情報の共有化を推進しよう ⑧ リハ技術を習得し看護ケアに生かそう ⑨ 家族へのケアと介護指導を徹底しよう ⑩ 看護計画を頻回に見直しリハ計画に反映しよう |
|---|---|

骨粗しょう症マネージャーによる 骨の無料相談室のご紹介

超高齢化を迎え、国として国民の骨粗鬆症の予防や重症化(骨折・ねたきり)防止に努めることが重要な対策の1つになっています。それに伴い、骨粗鬆症学会でも医師以外のメディカルスタッフが患者教育を行う骨粗鬆症マネージャーという資格制度が導入されました。

当院でも、一昨年1月に骨粗鬆症リエゾンチームを発足して骨粗鬆症マネージャーの資格を4名取得し、それぞれの専門分野の知識習得、情報共有を行ってきました。また11月より‘骨の相談室’を開設し、地域の方々に対して骨粗鬆症に関する不安や予防など幅広い相談に対し、色々なアドバイスや治療のお手伝いをしていこうと考えています。紹介にて骨密度検査(DEXA)の検査もお受けしておりますので、お気軽にご相談ご依頼をいただけましたら幸いです。



診療科紹介

整形外科



医師名：中原 啓行
NAKAHARA HIROYUKI

卒業年：平成16年卒

専門：脊椎・脊髄外科、外傷

資格：整形外科専門医

脊椎脊髄病外科指導医

脊椎脊髄病認定医

運動器リハビリテーション認定医

医学博士

整形外科の特徴

頸部痛、腰背部痛、肩こりや四肢の関節痛、痛み、しびれなどを治療します。当院は救急病院であるため、骨折等の外傷治療を積極的に行っております。また運動器疾患の予防にも力をいれており、骨粗鬆症治療や運動指導などを通して患者様の健康維持、生活の質の改善を目指しています。

治療方針

当科ではMRIやCT等による正確な画像診断、治療方針の決定のもと、最善の治療を提供いたします。脊椎脊髄外科では内視鏡手術やMISt(Minimally invasive spinestabilization)などできるだけ低侵襲で患者様の負担が少ない手術を心がけております。痛みの治療では投薬治療に加え、必要に応じて各種ブロック注射も行っておりますので、痛みでお困りの方がいらっしゃいましたらご相談ください。また救急部と連携して外傷の治療にも幅広く対応できる体制を整えております。当院だけでは対応困難な疾患でも近隣公的病院の各分野専門医と連携して適切に治療をご提供します。

高い専門性

〔脊椎専門外来〕

土曜日午前に脊椎専門外来を開設いたしました。脊椎脊髄外科指導医3名が交替で担当いたします。頸部痛、背部痛、腰痛、四肢の痛み、しびれ、筋力低下、歩行困難などの症状を診断し、適切な治療をお勧めいたします。手術は必要な場合はできるだけ低侵襲な手術で対応いたします。

〔関節外科外来〕

火曜日午前に膝・股関節の関節外科専門外来を開設いたしました。膝関節や股関節周囲の痛みでお悩みの方はお気軽にご相談ください。運動療法の指導や関節注射、必要の場合は最新の人工関節手術が施行できます。

〔骨粗鬆症リエゾン〕

当院ではDXEA法での骨密度測定装置を導入しており、精密な検査が可能です。腰椎、股関節での骨密度を測定し、検査の結果を踏まえて患者様それぞれに適した骨粗鬆症治療をお勧めしています。また骨粗鬆症性骨折後の骨粗鬆症治療へ介入し、適切な治療をお勧めするほか治療継続のためのフォローアップを行っていく予定です。日本骨粗鬆症学会が認定した骨粗鬆症リエゾンマネージャーが4名勤務しておりますので、骨粗鬆症でお悩みの方は地域連携室にお声かけください。



INFORMATION

NEW
FACE

新任医師のご紹介



セントラル・クリニック伊島
内科
丸井 幸之助
MARUI KONOSUKE

2月よりクリニックの内科に着任いたしました。動脈硬化性疾患の一次・二次予防が専門ですので、高血圧・脂質異常症・糖尿病・メタボリックシンドロームを治療のターゲットとしております。その他にもリスクファクターとされるものはたくさんあり、できる限りリスクを見つけ出し、1つでもリスクを減らしeventが起こらないようにすることを心がけております。よろしくお願い致します。



泌尿器科
杉野 謙司
SUGINO KENJI

初期研修医を終え、引き続き泌尿器科医として勤務することになりました杉野です。これから貢献できるよう頑張っていきますので、よろしくお願い致します。

TOPICS

医療従事者向け 勉強会のご案内

お問い合わせ先 地域医療連携室まで

●6月15日(木) 19時～20時

- 岡山中央病院セミナー室にて
- ※生涯教育講座1単位

「NSAIDs及び低用量
アスピリンによる
大腸粘膜病変
～その内視鏡像と下血の対策～」

講師：岡山中央病院
消化器内科 藤村 宜憲

●7月20日(木) 19時～20時

- 岡山中央病院セミナー室にて
- ※生涯教育講座1単位

「私自身が経験した
視床下部下垂体炎の
臨床経過」

講師：岡山中央病院
脳神経外科 平野 一宏



社会医療法人 鴻仁会

岡山中央病院
地域支援相談室
岡山中央奉還町病院
セントラル・クリニック伊島

<http://www.kohjin.ne.jp/>
<http://www.okayama-gan.com/> (がんセンター専用ページ)

〒700-0017 岡山市北区伊島北町6-3 TEL.086-252-3221 (代表)
TEL.086-252-5002 FAX.086-252-3929
〒700-0026 岡山市北区奉還町2丁目18-19 TEL.086-251-2222
〒700-0017 岡山市北区伊島北町7-5 TEL.086-214-5678

